vol.31 壺に書かれた模様が印象的

カムィヤキ

■ 出土地：稲福遺跡

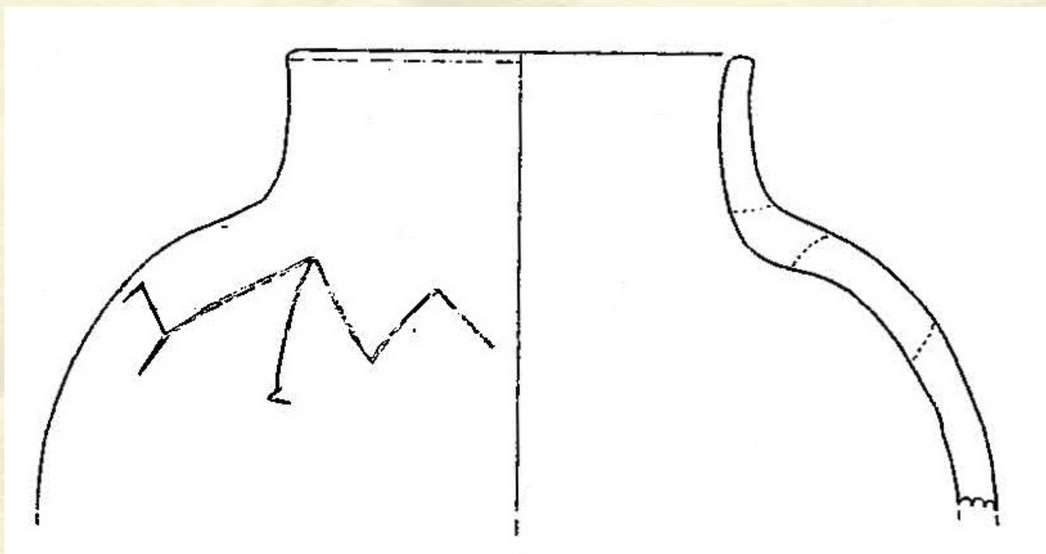
カムィヤキは11世紀から14世紀にかけて、現在の徳之島伊仙町で作られた焼き物で、グスク時代の琉球列島全体で使われ、同時代の鹿児島県や長崎県の遺跡からも少量ですが出土しています。また、長崎県産の滑石製の石鍋や、中国産の白磁の碗などと共に出土することが多いことから、当時の活発な交易活動がうかがえます。

南城市稲福遺跡から出土したカムィヤキの壺は口縁部が直立し、口唇部は丸みを帯びています。内外面はロクロで丁寧になでられており、外面のタタキ跡や内面の当て具跡は僅かな痕跡のみです。胎土は白色砂粒を含む粗いもので、にぶい青灰色を呈しています。

この壺の大きな特徴は、肩部に描かれた線刻で、アルファベットのWの字に似た特徴的な図形です。その形から制作者や窯を示す窯記号と考えられています。

稲福遺跡からは他に波状の文様や、底に円と直線が描かれた破片が出土しています。

〈廣岡 凌〉



カムィヤキの実測図